

新春市長対談

わたしたちのまち小牧について
山下市長とこれからの社会を担う新成人が語る



これからの社会を担っていく若い世代の中から、成人式の企画を行う4人の皆さんを市役所と小牧山に迎えて山下市長と対談を行いました。
(敬称略)

市長の想いについて

武藤 山下市長は他の市長に比べ、若くして市長になられたわけですが、どのような想いを持って市長になられたのですか。

市長 政治家を目指したのは、今の日本には経済的な国際競争力の低下や、財政問題をはじめ少子高齢化に伴う様々な問題など多くの課題が山積しており、先行き不透明で閉塞感が漂い、若い世代が将来に夢や希望、安心感を抱きにくい社会情勢を見るにつけ、何とかしなければならぬという想いが強かったですね。

国の政治が混迷を深める中、「社会の課題解決に対して、市としてどこまでできるだろう。生まれ育った小牧市で、やれるところまでやってみよう」と思うようになりました。

特に、地域の活力を持続させる産業の振興や、市民相互の助け合いの仕組みづくりなどを通じて安全・安心に力を入れていきたいと思っています。

文化的価値の高い小牧山

遠藤 小牧市にはいろいろな魅力があると思いますが、市長が考えられる魅力は何だと思われませんか。

市長 そうですね。本当にいろいろありますが、まずは先人の築いた礎によって財政基盤がしっかりしており、そのことが市民の皆さんに手厚い行政サービスを提供できるものになっています。産業がしっかりしているということは大きな誇りだと思います。

遠藤 安定した市民サービスは市民にとって、



遠藤 由梨

大学でスペイン語やラテンアメリカについて学んでいます。将来の夢は、海外の子どもとの交流経験を糧にし、海外で働くことです。



今枝 知世

芸術大学でヴァイオリンを学んでいます。将来の夢は、オーケストラに入って活躍することです。



眞崎 大介

大学で中国の文化について学んでいます。将来の夢は、児童養護施設で人がいることのありがたみに感謝できるような仕事することです。



武藤 健

専門学校でギターを学び、日々練習しています。将来の夢はギターのインストラクターになり、いつかデビューすることです。

とても安心感がありますね。
市長 また、小牧のシンボルとして、小牧山があります。最近、発掘で信長が小牧山城を築いたときの石垣が見つかっており、調査が進んで、文化的にも非常に価値の高いものであることが分かってきています。

戦国の世を天下統一に向けた織田信長が、最初につくった城下町が今の小牧につながっているということは非常に感慨深いものがあります。

用でき、外出の機会が増えることで健康増進にもつながればと思います。
シルバー人材センターなども活用しながら、高齢者が働く場も一層充実できると思います。
今後、高齢者が安心して地域で生活できるよう、地域協議会の設立など地域コミュニティを充実し、見守りや助け合いの仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。

元気な高齢者の活躍を期待
今枝 現代は高齢化社会といわれますが、高齢者のための取り組みについて考えをお聞かせください。

子育て支援策の充実
市長 子どもにとつて、安全な地域をつくるのが一番大事です。

私は、高齢社会は地域で助け合いながら、高齢者が元気に生きがいをもち活躍できる社会であってほしいと思います。充実した活力ある高齢社会、そのため、まず健康づくりのための仕組みを整えていきたいです。

子育ての支援という意味では、核家族化が進み、子育てに関してひとりでの悩みやストレスを抱えるお母さんも多いのを、気軽に子育ての悩みなどを相談できる環境づくり、特に親同士つながりをつくることのできる環境づくりが

例えば、休耕作地を活用した市民菜園をつくり、高齢者の皆さんに野菜づくりを楽しんでもらうといったことも推進していきたいです。
また、10月から65歳以上の方を対象として巡回バスを無料にしました。巡回バスを気軽に利

子どもにとつて、安全な地域をつくるのが一番大事です。そして、子どもは大人を良く見ていますし、社会の世相を敏感に感じ取ります。ですから、健全な大人社会をつくっていくことが健全な青少年を育てることにつながっていくと思います。



新成人一同 ありがとうございます。頑張りました。頑張ります。

市長 今日は対談に参加していただきありがとうございます。頑張りました。頑張ります。

成人を迎える皆さんに

様々な新商品やサービスを展開して活性化してくれることを期待しています。

皆さまプレミアム商品券は一例ではありますが、今後、さまざまな取り組みで市内を活性化していきたいと思っております。

対談後記

今枝 知世

対談の前はとても緊張していたのですが、山下市長は気さくに話してくださいました。また、質問に対して熱心に答えていただきとても有意義な時間を過ごさせていただきました。

子育て支援の充実や、小牧に住む高齢者が活発に生活できるようなまちづくりをしたいという市長の思いを直接聞いて、私自身もより小牧への思い入れが強くなりました。

山下市長がおっしゃっていた、「君たちや私たちの世代がこれから小牧を引っ張っていくのだから」という言葉がとても印象に残りました。成人を迎え、新しい節目に立ったので社会の一員としての自覚を持ち、大きく飛躍していきたいです。

眞崎 大介

今回の対談を通して、山下市長の人柄や小牧に対する考え、思いなどを知ることができました。

それと同時に、「自分は生まれ育った小牧について知らないことが多い」と気付かされました。これまでは住みやすい工夫された小牧を、与えられるだけの立場でした。しかし、成人を迎えることにより、これからの社会を担っていくことになりました。

一人の大人、一人の市民としてより良い小牧、ひいてはより良い日本になるよう、自分に何ができるか考え、行動していきたいです。今回の対談は短い時間ながらも、滅多に経験できない貴重な時間でした。

武藤 健

今回の市長対談で感じたことは小牧をより良い市にしようとする山下市長の熱意です。

どんな質問にも山下市長ならではの考え方があって感銘を受けました。私に対談で印象に残った市の取り組みは2点ありました。

はじめに、水ぼうそうとおたふくかぜのワクチンの費用の全額助成です。これは私たち市民にとってありがたいことであると思いました。

次にピーチライナー跡の利用についてです。バスを走らせてみる、自動車道にするなどの案が出たそうなのですが、何とかしようと取り組まれています。

新成人として何か小牧に貢献できたら良いと思います。

遠藤 由梨

今回、市長とお話させていただき、市長の小牧に対する強い思いを感じました。小牧はいろいろな施設が充実していて、とても住みやすいまちだと思います。今まではそれを当たり前のようには感じていたのですが、私たちの気付かないところでさまざまな工夫がされており、とても充実した環境であるのだと強く感じました。

そして、長く小牧に住んでいながらも、まだまだ私の知らないところがあった、「小牧ならではの良さ」の多さに驚きました。もっと自分の生まれ育った小牧についてしっかり考えていかなければならないとも感じました。限られた時間ではありましたが、貴重な経験ができて良かったです。



市長 最近では厳しい雇用情勢から共働きのお母さんも安心して働けるような環境づくりというものは、小牧の産業活動を支援することにもつながります。人材を確保

眞崎

子育てをされている方、今後取組む方にとって、とても助かると思います。小学校の放課後実施として、小学校の放課後児童クラブの時間を延長しました。保育園についても4月から4園で保育時間の延長を実施する予定です。

また、防げる病気が防げないという考えで、水ぼうそうとおたふくかぜのワクチンを全額助成することにしました。ワクチンを上手に活用できれば結果として医療費の抑制にもつながるんですよ。

市長 最近では厳しい雇用情勢から共働きのお母さんも安心して働けるような環境づくりというものは、小牧の産業活動を支援することにもつながります。人材を確保

産業と福祉は表裏一体

眞崎 小牧の商業の振興について、どのように考えておられますか。

市長 いまお話ししたように、商業を含めて、産業と福祉は財政を以て支えられています。市内の産業を強くし、税収を確保していくことが、市民サービスを支える財政の健全性は保つていかねばなりません。

しかし、市内の発達した工業や物流業と比べ、商業、特に大型店やチェーン店ではない地元のお店は衰退してきています。ただ、高齢化が進むと、地元密着

しやすいまちかどうかは企業の進出にとっても非常に大事な視点です。

福祉など市民サービスの充実を図るためには安定した市財政の維持が重要ですから、今後も小牧の産業基盤を一層充実していく必要があります。産業が充実すれば市民サービスも充実することができるようになります。そういう意味では、施策というものは全てつながっているんです。お母さんにとっても企業にとっても、もちろん子どもたちにとっても、より良い環境となるよう、上手く両立させていかなければならないと考えています。

武藤

知っています。家族が実際に使っています。

市長

この10月から半年間を利用期間として、総額5億5千万円の商品券を発行したんです。1万円から1万1千円のお買い物物ができる大変お得な商品券です。約1カ月間ですべて売り切れました。この事業は、市民生活を応援するとともに、市内での消費を促し、商業の活性化や地域の活性化をめざして、商工会議所の取り組みに市がプレミアム分を補助しています。初回は半年間でしたが、5千万円でしたが、年間の市民税の1%分の1億円をこうした形で市民に還元し、活性化につなげたいと考えています。ちなみに、同じく地域活性化などを目的として、他の地域では市民税減税が議論されています。



市が、仮に10億円の減税をしようとするとそのまま10億円の財源が必要となるのに比べ、プレミアム商品券を11億円発行するには1億円の財源をさみずみです。一方で、その効果は、市民税減税では、所得によって減税額に大きな差が出たり、減税分が必ずしも消費に回るとは限らないなどのデメリットがあるのに対し、プレミアム商品券は、使用上限があるため一定期間に必ず全額が市内で消費されるというメリットがあります。